

平成 29 年 2 月 10 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ユ ー グ レ ナ
代 表 者 名 代 表 取 締 役 出 雲 充
(コード番号：2931)
取 締 役
問 合 せ 先 財 務 ・ 経 営 戦 略 担 当 永 田 暁 彦
(TEL. 03-3454-4907)

設備投資（固定資産の取得）に関するお知らせ
～バイオジェット・ディーゼル燃料製造実証プラントへの設備投資～

当社は、平成 29 年 2 月 10 日開催の当社取締役会において、以下のとおり、千代田化工建設株式会社との工事等請負契約について決議し、同日付で締結いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 設備投資の理由

当社は、平成 27 年 12 月 1 日付で発表した「2020 年に向けた国産バイオジェット・ディーゼル燃料の実用化計画」に基づき、バイオジェット・ディーゼル燃料製造実証プラント（以下、「本実証プラント」）の建設に向けて、基本設計、関係各所への届出・申請、建設予定地の整備等の準備を進めてまいりました。

このたび、本実証プラントの着工に必要な詳細が固まったことを受け、本実証プラント建設の全体計画に係る下記の設備投資を本日開催の当社取締役会において決議し、千代田化工建設株式会社との間で本実証プラントの設計・調達・建設に関する工事等請負契約（以下、「本工事等請負契約」）を締結致しました。なお本工事等請負契約は、実際の工期や費用の変動に関わらず支払額が一定となる固定金額契約（ランプサム契約）です。本工事等請負契約における工事着工日は平成 29 年 6 月 1 日、完成期日は平成 30 年 10 月 31 日に設定しております。本工事等請負契約の締結により、本実証プラントの追加設計、機材調達、建設工事等の一連の業務は、千代田化工建設が完成工期を遵守するよう遂行していくこととなります。また、本工事等請負契約の締結と同日付で旭硝子株式会社との事業用定期借地権設定契約を締結しております。

当社は、平成 28 年 11 月 9 日付で、平成 32 年 9 月期までに「グループ連結売上高 300 億円の達成」と「国産バイオジェット・ディーゼル燃料の実用化（国産バイオ燃料計画）」の達成を目指す新たな中期経営目標を公表いたしております。当社は当該中期経営目標の達成のため、本実証プラントで生産される国産のバイオジェット燃料及びバイオディーゼル燃料を使用した有償フライトと公道走行の実現を目指してまいります。また、「国産バイオ燃料計画」の完了後は、本実証プラントの建設・運用の知見を活用して、商業プラント建設の検討・準備に着手する予定です。

2. 設備投資の概要

(1) 設備投資の内容	バイオジェット・ディーゼル燃料製造実証プラント
(2) 所在地	神奈川県横浜市鶴見区末広町 1 丁目 1 (旭硝子株式会社 京浜工場内)
(3) 敷地面積	7,787.6 m ²
(4) 生産品目	バイオケロシン、バイオディーゼル、バイオナフサ
(5) 設備投資額	5,820,000,000 円 (税別) 上記金額には本工事等請負契約の契約金額の他、既に支払い済みの基本設計費用、先行発注費用および土地整備費用等、ならびに今後支払う予定の諸費用 (一部ドル建ての費用が含まれているため、為替の変動により金額が変動する可能性があります) が含まれております。
(6) 完成期日	平成 30 年 10 月 31 日

3. 取得の日程

(1) 取締役会決議日、契約締結日	平成 29 年 2 月 10 日
(2) 着工予定日	平成 29 年 6 月 1 日
(3) 物件引渡予定日	平成 30 年 10 月 31 日

4. 今後の見通し

本実証プラントはバイオジェット燃料及びバイオディーゼル燃料の実用化に向けた実証研究を目的に建設されるため、本実証プラントに係る投資額は、物件引渡日をもって全額が研究開発費として一括費用計上される見込みです。物件引渡日までに発生する支払い金額に関しては、建設仮勘定として資産計上されるため、本設備投資による平成 29 年 9 月期の業績への影響につきましては、現時点では発生しない見込みです。

設備投資資金につきましては、平成 25 年 11 月 18 日付の取締役会にて決議した公募増資によって調達した資金のうち 43 億円を充当し、残額については手元現預金を充当することを想定しております。

なお、今後開示すべき事項が発生した場合には、速やかにお知らせいたします。

(参考) 当期連結業績予想 (平成 28 年 11 月 9 日公表分) 及び前期連結実績

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結当期純利益
当期連結業績予想 (平成 29 年 9 月期)	百万円 15,000	百万円 820	百万円 1,100	百万円 690
前期連結実績 (平成 28 年 9 月期)	百万円 11,103	百万円 693	百万円 944	百万円 673

詳細は、添付別紙をご覧ください。

以上

バイオジェット・ディーゼル燃料製造実証プラントの建設について

～ユーグレナと千代田化工建設との工事等請負契約が締結され、実証プラント完成期日が確定
2020年迄にバイオジェット・ディーゼル燃料の実用化を目指す「国産バイオ燃料計画」が着実に進捗～

株式会社ユーグレナ
千代田化工建設株式会社

株式会社ユーグレナ（本社：東京都港区、社長：出雲充、以下「ユーグレナ社」）と千代田化工建設株式会社（本社：神奈川県横浜市、代表取締役副社長：中垣啓一、以下「千代田化工建設」）は、横浜市の京浜臨海部における日本初のバイオジェット・ディーゼル燃料製造実証プラントの建設に向けた工事等請負契約を本日付で締結しましたので、お知らせいたします。本契約締結により、実証プラントの建設スケジュールが2017年6月着工、2018年10月完成で確定し、2019年前半に予定しているバイオジェット・ディーゼル燃料の生産開始に向けて大きく前進しました。

ユーグレナ社は、2015年12月1日付で、横浜市、千代田化工建設、伊藤忠エネクス、いすゞ自動車、全日本空輸の協力のもと、2020年に向けた国産バイオジェット・ディーゼル燃料の実用化計画（以下、「国産バイオ燃料計画」）の始動を発表し、バイオジェット・ディーゼル燃料実証プラントの建設に向けた基本設計、関係各所への届出・申請、建設予定地の整備等を進めてまいりました。このたび締結した工事等請負契約では、実証プラント建設の完成期日を2018年10月31日で予め確定しており、千代田化工建設は、完成期日を遵守するよう実証プラントの設計・調達・建設という一連の業務を遂行していきます。契約金額も固定額で確定しており、ユーグレナ社は同契約金額を含む投資総額の全てをすでに公募増資や手元資金で確保しております。また、本工事等請負契約の締結と同日付で旭硝子株式会社との間で事業用定期借地権設定契約を締結致しました。

このため、今回の工事等請負契約締結をもって、2020年迄の国産バイオジェット・ディーゼル燃料の実用化に向けた製造面の体制整備は完了いたしました。

■ バイオジェット・ディーゼル燃料製造実証プラントの概要

	前回公表時の内容 (2015年12月1日 ^(※1))	今回公表時の内容 (2017年2月10日)
建設予定地	神奈川県横浜市鶴見区末広町1丁目1 (旭硝子株式会社 京浜工場内)	変更なし ^(※2)
敷地面積	約 9,000 m ²	7,787.6 m ²
着工予定時期	2017年夏迄	2017年6月1日
竣工予定時期	2018年冬迄	2018年10月31日 ^(※3)
稼働予定時期	2019年前半迄	2019年前半
生產品目	バイオケロシン、バイオディーゼル、 バイオナフサ	変更なし
投資総額	未定	約 58 億円 ^(※4)

(※1) 着工・竣工・稼働時期に関しては、2016年8月12日付で発表した工期変更後の時期を記載。

(※2) 旭硝子株式会社との間で、事業用定期借地権設定契約を2017年2月10日付で締結し、2017年6月1日より賃借開始。

(※3) 今次締結した工事等請負契約における、実証プラントの完成期日。

(※4) 今次締結した工事等請負契約における契約金額のほか、実証プラントに関連する基本設計費用、土地整備用等の諸費用（一部は既に支払い済み）を含む金額。

■最新完成イメージ図（2017年2月10日段階）



① 事務棟 ②反応装置棟 ③用役設備 ④貯蔵タンク ⑤出荷場

■工事等請負契約締結までの歩みと今後のスケジュール 別添1を参照ください。

■その他の進捗状況

「国産バイオ燃料計画」は、製造面以外の取り組みについても着実に進捗しております。現在の進捗状況は以下の通りです。

- ・ バイオ燃料の原料に関しては、2016年9月1日付で三重県多気町に国内最大級の燃料用微細藻類培養プールを建設するプロジェクトを公表するとともに、伊藤忠エネクスとの間で原料調達に関する協議・調査を実施しております。
- ・ 実証プラントの運用に関しては、運用に必要なプラント統括責任者がユーグレナ社に参画し、その他の実証プラントの運用人員の採用も順調に進んでおります。
- ・ バイオジェット燃料の実用化に向けた環境整備に関しては、「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けたバイオジェット燃料の導入までの道筋検討委員会」への参加や関係各所との協議を通じて、実証プラントで製造したバイオジェット燃料の品質評価、混合、貯蔵、輸送、空港で

の給油などの一連のロジスティクスについて検討を進めるとともに、全日本空輸との間で有償フライト実現に向けた調査・情報交換を実施しております。

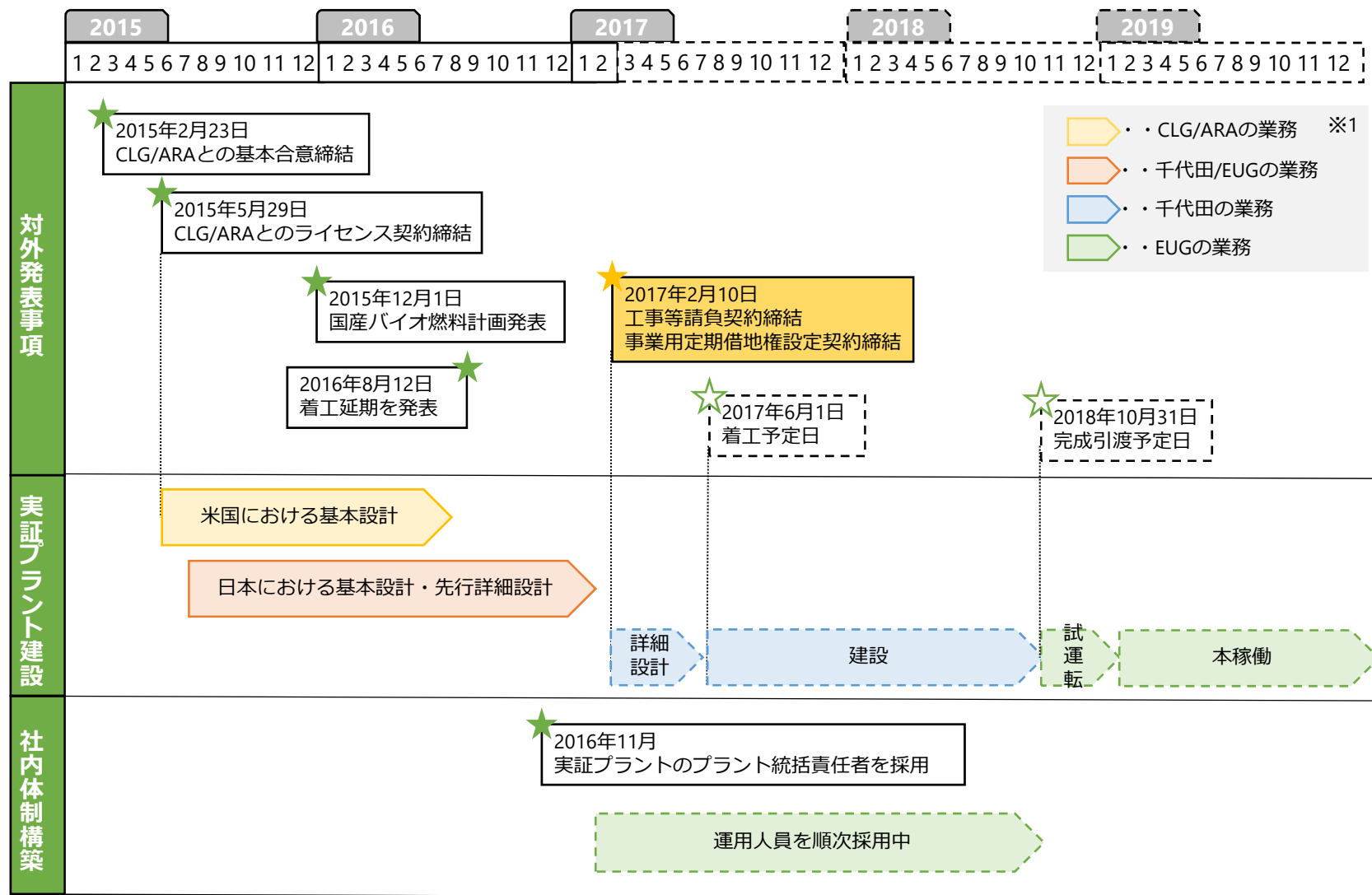
- ・ バイオディーゼル燃料の実用化に向けた環境整備に関しても、いすゞ自動車との間で次世代バイオディーゼル燃料を用いた公道走行の実現に向けた検討に着手しております。
- ・ 航空会社への供給の際にバイオジェット燃料が準拠する必要のある米国の ASTM 規格に関しては、実証プラントで採用するバイオ燃料製造技術「バイオ燃料アイソコンバージョンプロセス技術」のライセンス元である米国の Chevron Lummus Global & Applied Research Associates が ASTM 規格化を進めております。

ユーグレナ社は、様々なパートナーや関係各所からの協力のもと、2020 年迄のバイオジェット・ディーゼル燃料の実用化に向けて、引き続き「国産バイオ燃料計画」を推進してまいります。「国産バイオ燃料計画」の完了後は、商業プラント建設の検討・準備に着手いたします。日本におけるバイオジェット・ディーゼル燃料の普及、そして日本の温暖化ガス排出削減に貢献するべく、研究開発と事業推進に努めてまいります。

以上

国産バイオ燃料計画—これまでの歩みと今後のスケジュール

2020年迄の実用化に向けた製造面の体制整備は完了



(※1) CLG = Chevron Lummus Global、ARA = Applied Research Associates、千代田 = 千代田化工建設株式会社、EUG = 株式会社ユーグレナ